

CARTS OF 2015

1.4 SUN - 1.18 SUN 11:00-20:00

OMOTESANDO SPIRAL GARDEN

入場無料

ARTIST

猪風来 / we+ (林登志也・安藤北斗)・
高橋昂也 / 大森準平 / 大藪龍二郎 /
片桐仁 / 金理有 / 小林武人 / GOMA /
坂巻善徳 a.k.a.sense / 篠崎裕美子 /
渋谷忠臣 / 竹谷隆之 / 堀江武史 /
丸岡和吾 / 村上原野 / 結城幸司 (50音順)

主催: 青森県 / NPO法人 jomonism



東京メトロ表参道駅 (銀座線・千代田線・半蔵門線) B1出口すぐ
東京都港区南青山 5-6-23
お問い合わせ: 03-5787-8830 (NPO法人 jomonism)

ARTs of JOMON in Tokyoによせて

現代社会は、便利であることが何よりも優先され、それがゆえに効率的に物事が考えられます。地球規模での急激な人口の増加を考えれば、それが人間の知恵であることは間違いありません。しかしそれが加速することによって、環境も急激に変化し、エネルギー・食料など様々な問題が浮上し、地球上で人がこれからどれだけ生き延びていけるだろうかという、人類はもっと根本的な問題を抱えることになりました。どうせん心ある人は、このまま先へ進んで本当にいいのだろうかという疑問を持つ

ことになります。このような時代に10000年以上続いた縄文という時代に興味を抱く人が出てくるのは、ある意味必然と言えるでしょう。なぜこんなにも永くこの時代は続いたのか。そこに、これから人類が生き延びるためのヒントがあるのではないか。これがARTs of JOMON in Tokyoに参加するアーティストが共有している感覚ではないかと思います。そして私自身も、計り知れない力を縄文に感じています。

——グラフィックデザイナー 佐藤 卓

ARTIST PROFILE



高橋昂也
KOYA TAKAHASHI

<http://www.takahashi-koya.com>

1985年愛知県生まれ。映像作家。緻密な描画と独自の技法で映像を作成し、TV、ゲーム、舞台、文化施設等で活動。民俗、宗教、自然科学のものつ神话性、また日本土着の世界認識を基盤とした表現を試み、自主的な制作活動も行う。

片桐仁
JIN KATAGIRI

1973年、埼玉県出身。ラーメンズとしての活動以外に舞台・ドラマ等に出演。NHK教育「シャキーン!」TBSラジオ「エレ片のコント太郎」にレギュラー出演中。また、粘土作品集『ジンディー・ジョーンズ 感涙の秘宝 粘土道2』が講談社より発売中。

GOMA

<http://www.gomaweb.net>

オーストラリア先住民族の管楽器ディジュリドゥの奏者・画家。2009年に交通事故で高次脳機能障害となり、事故後まもなく突然緻密な点描画を描き始める。2012年には自身を主人公とする映画「フラッシュバックメモリー3D」が公開。

澁谷忠臣
TADAOMI SHIBUYA

<http://www.tadaomishibuya.blogspot.jp>

直線的に再構築する世界観を持つアーティスト/イラストレーター。その独自のスタイルで世界中の企業とのコラボレーション、クリエイティブワークを行っている。またhpgr Gallery Tokyoやパリでの個展をはじめ、ロンドン、NY、LAなどで数々の展示に参加。表現の場は国内外、ジャンルを問わず多岐に渡る。

丸岡和吾
KAZUMICHI MARUOKA

<http://www.kazumichimaruoka.com>

觸覚や骨に特化した造形作家。その活動範囲は焼物からファッショニまで多岐に渡る。焼物の制作年数は長くないものの、その造形力を遺憾なく発揮した茶道具などは既に引く手数多。



猪風来
IFURAI

1947年広島県出身。縄文野焼き技法の第一人者。縄文の心を求めて北海道の大自然の中で暮らし縄文の美の根源性に開眼、生命と魂の文様が躍動する野焼き作品を多数創作。近年は穴窯での施釉縄文造形作品や、華麗に舞う渦の彩色縄文文様画など新境地の猪風来縄文スパイラルアートを創作。2005年岡山県新見市に猪風来美術館開館。



大森準平
JUMPEI OMORI

<http://www.megumiogita.com/cn4/pg119.html>

アニメーションを感じさせる抽象的な黒陶の彫刻から記号的に縄文土器を扱ったポップなシリーズまで幅広く展開する。既にNYの美術館に作品が所蔵されるなど海外での評価も高い。



大藪龍二郎
RYUJIRO OYABU



WE+ 林登志也
TOSHIYA HAYASHI
安藤北斗
HOKUTO ANDO

<http://www.weplus.jp>



グラフィック、プロダクト、広告、インタラクティブ、技術開発等、フィールドを限定せずさまざまな活動を展開するクリエイティビティスタジオ。プロダクトそのものに時間や場所の意味づけを与えるプロジェクト得意とする。



金理有
RIYOO KIM

<http://www.riyookim.com>

焼物を学び始めてから古代の遺物に興味を持ち、未来も古代も想像力の世界であるという着想を得てその双方を感じさせる作風に至る。刺青やクラブミュージックなどの現代文化を「土着」と仮定し、原始文化や宗教との関連性を考察しながら表現へと昇華する。



坂巻善徳 A.K.A. SENSE
YOSHINORI SAKAMAKI

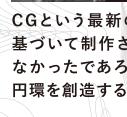
<http://www.sensepeace.me>

即興的に「カタチ」を増殖させていく描法で、瞬く間に画面に有機的とも機械的ともいえる造形を出現させる。生命力に溢れた形は一期一会で変化する。



小林武人
TAKETO KOBAYASHI

<http://vimeo.com/user7375530/videos>



CGという最新の道具を使いながら、その作品は縄文精神に基づいて制作される。新しい技術により、縄文人が描き出せなかっただろう文様を乱舞させ、太古と未来を繋ぐ大きな円環を創造する。



篠崎裕美子
YUMIKO SHINOZAKI

ピートニク文化の視覚表現に影響を受け、セラミックに原色を使った装飾を施す呪術的な造形が特徴。リズムを刻むような点描と鎧(しのぎ)は縄文の造形に通じるものがある。



堀江武史
TAKESHI HORIE

修復家。考古学の文献を参考にした作品づくりも行う。「縄文の魅力を世界につたえたい～私の考える縄文遺物と現代美術の協同～」等で自作品を用いて縄文遺物を紹介。2002年に企画した三内丸山遺跡での一般向け「土偶のレプリカづくり」は11年間続いている。「縄文文化の伝え方」が終生のテーマ。



結城幸司
KOJI YUKI

版画家、ミュージシャン。アイヌ民族の運動家としても活動。アイヌの音楽と舞蹈、手仕事などを伝える「アイヌ・アートプロジェクト」を2000年に設立。全国でライブやワークショップなどの活動を行っている。2008年には世界12カ国22民族による「先住民族サミット」のアイヌモシリ2008事務局長を務めた。